

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4071600912
法人名	学校法人 久留米ゼミナール
事業所名	グループホーム 御井つつじ苑
所在地	福岡県久留米市御井町2011番地 (電 話) 0942-45-0967

評価機関名	福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	20年 6月 12日
評価確定日	20年 8月 7日

【情報提供票より】(20年 5月 20日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 12年 11月 1日
ユニット数	3 ユニット
利用定員数計	27 人
職員数	31 人
常勤	22人
非常勤	9人
常勤換算	27.1人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	3 階建ての ~ 1・2・3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	36,500 円	その他の経費(月額)	15,500 円
敷 金	有 () (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有)(100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食 円	昼食 円	
	夕食 円	おやつ 円	
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要 (平成20年 5月 20日現在)

利用者人数	27 名	男性	5 名	女性	22 名
要介護1	5 名	要介護2	6 名		
要介護3	7 名	要介護4	9 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.8 歳	最低	63 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	渡辺医院・新古賀病院・毛利歯科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

学生寮を改築した3階建て3ユニットの事業所である。大学や高校、研究施設に隣接し、近郊の風景を見渡せる丘陵地の住宅地に位置している。苑内はゆとりある広さが確保され明るい環境にある。運営理念にある「笑顔と優しさ・共に過ごし支え合う関係・地域とのふれあい」など、利用者が主体であることを基本に職員と利用者の関係が良好に築かれている。毎日リハビリ体操や食事前の嚥下体操を行い筋力保持と誤嚥を防ぐ工夫をし、3ヶ月に1回、医師の協力のもと、医師を含むサービス担当者会議を開く等、積極的な取り組みを行っている。運営推進会議を通して地域・校区内との関わりも大きくなっており、地域密着型の事業所として着実に地域に定着している。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目：外部4)
	前回評価での改善課題について改善計画シートを作成、期間を設定し、優先順位を付けて改善に向け取り組んでいる。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目：外部4)
	今回の自己評価については、各階毎にフロア長が骨子を作成して、全職員の意見を聴取し総括主任が集約している。前回評価の改善課題について職員で話し合い、改善計画シートを作り具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目：外部4, 5, 6)
	運営推進会議を定期的に開催し、利用者の現状報告や今後の活動計画等を報告して、委員から意見や要望・質問をもらっている。それらの意見から地域高齢者・独居老人の状況を把握したり、地域行事に参加し地域との交流が深まるなど、サービス向上に活かしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目：外部8, 9)
	家族の意見は来訪時に職員が声かけして聴いたり、運営推進会議の際に積極的に意見・要望・不満など聴取するよう努めている。また意見箱の設置や、介護相談員への相談等で意見・不安の把握に努めている。第三者相談窓口は利用開始時に説明している。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目：外部3)
	事業所は地域の一員として自治会に加入し、事業所便りを地域に回覧している。敬老会、地区の祭りに参加し、また地域の人に事業所恒例の夏祭りにも参加してもらい、地域との交流を深めている。校区の社会福祉協議会・近隣大学生の訪問受け入れなどで意見交換をしている。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念があり、地域密着型の視点が盛り込まれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼・申し送り時に全職員で理念を唱和し意識化を図っている。言葉かけ・態度など、具体的なケアで理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は地域の一員として自治会に加入し、事業所便りを地域に回覧している。敬老会、地区の祭りに参加し、また地域の人に事業所恒例の夏祭りにも参加してもらい、地域との交流を深めている。校区の社会福祉協議会・近隣大学生の訪問受け入れなどで意見交換をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は各階毎にフロア長が骨子を作成して、全職員の意見を聴取し総括主任が集約している。前回評価の改善課題について職員で話し合い、改善計画シートを作り具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い、利用者の現状報告や今後の活動計画等を報告して、委員から意見や要望・質問をもらっている。それらの意見から地域高齢者・独居老人の状況を把握したり、地域行事に参加し地域との交流が深まるなど、サービス向上に活かしている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は、行政担当者へ報告・相談等で日常的に連携をとり、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	事業所は地域権利擁護、成年後見制度を活用している利用者の支援をし、運営者からカンファレンス毎に学ぶ機会を設けているが、全職員の研修までには至っていない。	○	パンフレット・研修記録・報告書を整備し、全職員が必要に応じて家族等に情報提供ができるよう、全職員の制度への理解を深めてほしい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書と、担当職員からの暮らしぶり・健康状態を記した手書きの便りを同封し郵送している。また、事業所便りを定期的に発行し併せて郵送している。金銭管理・職員の異動については、家族等に定期的に個々にあわせた報告をしている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には手紙や来訪時声掛けする等、積極的に意見・要望・不満など聴取するよう努めている。第三者相談窓口は利用開始時に説明している。ドライブ、外食、地域でのイベントに参加し、ふれあいを大事にするなど利用者・家族からの意見を運営に反映させている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者にとって馴染みの職員が継続的に支える体制をとり、やむを得ず異動や離職する場合には、引継ぎ期間を十分に取り、利用者のダメージを防ぐ配慮をしている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印	取り組みを期待したい内容
外部	自己			(取り組みを期待 したい項目)	(すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用にあたっては、性別や年齢に関係なくやる気のある人や、人間性を重視している。事業所で働く職員にはその能力を発揮できるよう資格取得など、職員の自己実現の権利が保証されるよう配慮している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	運営者は人権教育の重要性を認識し、フロア長会議やカンファレンス時に人権に関する学習会を行っている。人権に関する資料も整備している。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員育成の重要性を認識し、日常的に学ぶ事を推進し、資格取得を支援している。	○	スキルアップや職員育成のために全職員へ内・外研修へ参加する機会を確保し、研修資料などは、職員がいつでも確認できるように整備し、その記録を残してほしい。
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホーム連絡協議会に加入し、親睦を図っている。職員は同業者との交流のなかで、救命法や、居室の環境づくりなどを、サービスの向上に活かしている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に事業所の見学や一日体験・宿泊体験、自宅訪問・病院訪問を行い馴染みの関係を築くよう家族等と相談しながら工夫している。やむを得ず即利用の場合は、家族と共に今までの経過など相談しながら工夫している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の下ごしらえや居室の掃除をしながら、昔の話で本人の思いに共感したり、趣味が一緒に盛り上がるなど、利用者と一緒に過ごしなが 喜怒哀楽を共にし、学び支え合う関係を築いている。 職員が夜勤の時などは、利用者から労いの言葉ももらっている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりのなかで利用者の言葉や表情から把握している。把握が困難な場合には、家族から話を聞いたりこれまでの生活歴など踏まえて、カンファレンスの中で話し合いを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者の状態や本人、家族等の希望や意向を踏まえて、また職員から出た意見を参考にしながらフロア長が個別の介護計画を立てている。介護計画は利用者や家族に説明して了承印をもらっている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回モニタリングを行い、6ヶ月毎に計画の見直しを行っている。また入退院時や特別の変化がある場合には、その都度関係者と話し合っ て計画を立てている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や送迎など必要な支援は柔軟に対応できる体制を整えている。通院が難しい利用者には往診を行っている。また利用者が入院した際には、病院に必要な情報提供を行い連携を図って、早期退院に向けた支援を行っている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実	○印	取り組みを期待したい内容
外部	自己		(実施している内容・実施していない内容)	(取り組みを期待したい項目)	(すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人希望のかかりつけ医を大切に、そのかかりつけ医との連携を図っている。家族等とも通院介助の方法や受診後の連絡等について話し合っている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化対応・終末期ケア対応指針」を策定し、契約時に家族等にも説明して同意を得ている。家族、主治医、職員などの関係者で話し合いをして、本人が望む場所で馴染みの関係のなかで最期まで暮らしていけるように支援している。		
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いについては職員に徹底を図っている。日々の関わりのなかでも、職員同士注意しあいながら、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どのように過ごしたいか、利用者のペースを大切にするように努め、柔軟に対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下準備など利用者に来る事があれば職員と一緒に、会話をしながら食卓を皆で囲み、和やかな雰囲気をつくっている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の回数や順番などは利用者の希望に沿っている。入浴拒否する利用者には、時間をかけ職員が交替で声かけして入浴支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の出来る事や得意な事を把握し、生け花、草取り、楽器演奏、部屋掃除など一人ひとりの能力を生かした支援をしている。さらに利用者の力を引き出し、活動の場面が増えるよう支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や体調などを考慮しながら戸外で外気浴し、また散歩やドライブに週1回出かけている。利用者の希望する買い物には、本人と一緒に月1回程度出掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	立地条件から、全家族等に説明を行い、同意を得てやむを得ず玄関を施錠している。現在、自由に入出りが出来る2階ベランダの設置等を検討している。	○	利用者の安全を考慮しながら様々な工夫をし、施錠の頻度を少なくしてほしい。
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所で独自の非常災害計画を作成し、年2回の避難訓練を行っている。運営推進会議などを通して避難訓練に地域住民の参加を呼びかけている。	○	非常食や飲料水・備品の準備をしてほしい。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
（５）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量、水分摂取量は個別に記録している。水分補給は午前と午後に時間を確保して、それ以外でも本人の状況に応じて支援している。また、栄養士によるアドバイスやチェックを最低年1回受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
（１）居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花が活けられ、壁には利用者と職員で作った折り紙の作品・利用者本人の俳句等を飾り、居心地の良い空間になっている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用時に馴染みの家具や生活品を持ってきてもらうよう声かけし、家族や職員で協力して居心地よく過ごせるように居室を整えている。本人にとって落ち着いて安心して過ごせる空間となっている。		

※ は、重点項目。